

高校世界史プリント（過去問類似）

近世（結びつく世界） No.5

名前

得点

/10

問1 明代中期以降、長江下流域において綿織物業や絹織物業などの手工業が発達し、商品作物の栽培が本格化した。これに伴い、主食である米の主要な生産地域は長江中流域へと移行した。この長江中流域の農業的發展と、それによる全国的な食糧供給の様子を表した言葉として最も適当なものは何か。（2009年 全国公立入試 類似）

1. 蘇湖熟すれば天下足る 2. 蘇常熟すれば天下足る 3. 湖広熟すれば天下足る 4. 江浙熟すれば天下足る

問2 14世紀から15世紀にかけてイタリア＝ルネサンスの中心地として繁栄したトスカーナ地方の都市国家において、毛織物業や金融業で莫大な富を築き、芸術家や学者を保護して文化の黄金期を支えた一族は何か。（2012年 全国公立入試 類似）

1. フッガー家 2. ブルボン家 3. メディチ家 4. ロマノフ家

問3 大航海時代以降にユーラシア大陸へ伝来したトウモロコシやサツマイモなどの作物は、耕作に適さなかった山地や丘陵地での栽培を可能にし、食糧生産を飛躍的に向上させた。これらの作物の普及が、急激な人口増加を支える要因となった中国の王朝は何か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 宋 2. 清 3. 明 4. 元

問4 14世紀末に成立した朝鮮王朝（李朝）では、官僚登用のための厳格な国家試験制度が整備され、支配層の地位を維持・固定化する役割を果たした。江戸時代に日本を訪れた朝鮮の使節は、日本にこの制度が存在せず官職が世襲されていることを批判的に捉えたが、この国家試験制度を何というか。（2023年 全国公立入試 類似）

1. 任子 2. 辟召 3. 科挙 4. 貢挙

問5 明や清の時代に、中国皇帝から冊封を受け、朝貢を行って中継貿易で繁栄したものの、17世紀初頭に日本の薩摩藩の侵攻を受けてその支配下にも入るといふ、日中両属の立場に置かれた国家は何か。（2023年 全国公立入試 類似）

1. 琉球王国 2. 高麗王朝 3. 朝鮮王朝 4. 邪馬台国

問6 明代の中国では、長江下流域の蘇州などが綿織物業や製糸業などの商工業都市へと発展した。これに伴い、新たな穀倉地帯となった長江中流域の生産力の高まりを表現した言葉は何か。（2024年 全国公立入試 類似）

1. 蘇常熟すれば天下足る 2. 江浙熟すれば天下足る 3. 湖広熟すれば天下足る 4. 蘇湖熟すれば天下足る

問7 清朝の第4代皇帝は、三藩の乱を鎮圧したのち、1683年には台湾を拠点に抵抗を続けていた勢力を降伏させて中国統一を完成させた。ロシアとの間でネルチンスク条約を締結したことや、地丁銀制の端緒を開いたことでも知られるこの皇帝は誰か。（2007年 全国公立入試 類似）

1. 康熙帝 2. 順治帝 3. 雍正帝 4. 乾隆帝

問8 18世紀半ばにビルマ（ミャンマー）を統一し、1767年には隣国タイのアユタヤ朝を滅ぼしたが、19世紀にイギリスとの戦争に敗れてインド帝国に併合された王朝は何か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. トゥングー朝 2. スコータイ朝 3. コンバウン朝 4. ランサーン朝

問9 19世紀初頭のウィーン会議において、ナポレオン側に加担した国から割譲され、スウェーデンとの同君連合を形成することとされたものの、完全な独立は認められなかった北歐の国はどこか。（2009年 全国公立入試 類似）

1. スウェーデン 2. デンマーク 3. フィンランド 4. ノルウェー

問10 16世紀後半にインドを支配したムガル帝国の第3代皇帝は、多数派であるヒンドゥー教徒との融和を図るため、非ムスリムに課されていたある税を廃止した。この廃止された人頭税の名称を何というか。（2011年 全国公立入試 類似）

1. ハラージュ 2. ザカート 3. ジズヤ 4. ウシュル

答え合わせ・解説 No.5

問1	答え 3 湖広熟すれば天下足る	宋代には長江下流域が穀倉地帯として栄え「蘇湖（江浙）熟すれば天下足る」と言われた。しかし、明代中期以降、長江下流域で手工業や商品作物の栽培が盛んになると、穀物生産の中心は長江中流域（湖北・湖南）へと移り、「湖広熟すれば天下足る」と称されるようになった。
問2	答え 3 メディチ家	フィレンツェで金融業などにより台頭したメディチ家は、コジモやロレンツォらの時代に芸術家を厚く保護し、ルネサンス文化の開花に決定的な役割を果たした。のちに教皇やフランス王妃も輩出している。
問3	答え 2 清	大航海時代以降にアメリカ大陸から伝来したトウモロコシやサツマイモ、ジャガイモなどの作物は、それまで耕作に適さなかった山地や丘陵地での栽培を可能にした。これにより、清代の中国では食糧生産が飛躍的に向上し、18世紀以降の急激な人口増加を支える重要な要因となった。明代以前の王朝では、これらの作物の本格的な普及による大規模な人口増加はまだ見られない。
問4	答え 3 科挙	朝鮮王朝（李朝）では、高麗の制度を引き継いで科挙が厳格に実施され、官僚登用の主要なルートとなった。これにより儒教的教養を持つ両班が官職を独占した。江戸時代に朝鮮通信使として来日した知識人たちは、日本に科挙がなく、武士が世襲で行政を担っている状況を見て、有能な人材が登用されない非合理的な制度であると批判した。一方、日本の儒学者の中には、科挙の文才偏重を批判し、人柄を重視する立場から世襲制や周代の封建制を肯定的に評価する者もいた。
問5	答え 1 琉球王国	明や清の時代、中国皇帝と冊封関係を結んで朝貢貿易を行い、東南アジアや日本、中国を結ぶ中継貿易で繁栄した国家は琉球王国である。1609年に日本の薩摩藩（島津氏）による侵攻を受け、実質的にその支配下に入ったが、その後も中国（明・清）への朝貢を継続し、日中両属の体制を維持した。
問6	答え 3 湖広熟すれば天下足る	宋代には長江下流域の農業生産力の高さを表す「蘇湖（江浙）熟すれば天下足る」という言葉があったが、明代中期以降、同地域で手工業や商工業が発達して商品作物の栽培が盛んになると、穀物生産の中心は長江中流域へと移行した。この長江中流域（現在の湖北省・湖南省付近）を指す「湖広」の生産力を示す言葉として「湖広熟すれば天下足る」が使われるようになった。
問7	答え 1 康熙帝	清の第4代皇帝である康熙帝は、内乱である三藩の乱を鎮圧し、1683年には台湾の鄭氏一族を降伏させて中国統一を完成させました。対外的にはロシア（ロマノフ朝）のピョートル1世との間でネルチンスク条約を結んで国境を画定し、内政面では丁税（人頭税）を地税（土地税）の中に繰り込む地丁銀制の端緒を開くなど、清の全盛期の基礎を築きました。
問8	答え 3 コンバウン朝	18世紀半ばにアウンパヤーによって建国されたコンバウン朝（アウンパヤー朝）は、1767年にタイのアユタヤ朝を滅ぼすなど強盛を誇った。しかし、19世紀に入ると領土拡張をめぐるイギリスとの間で3回にわたるイギリス・ビルマ（ミャンマー）戦争が勃発し、最終的に1886年にイギリス領インド帝国に併合された。
問9	答え 4 ノルウェー	ウィーン会議（1814～1815年）において、ナポレオン側に立ったデンマークは敗戦国となり、領有していたノルウェーをスウェーデンに割譲することを余儀なくされた。ノルウェーはスウェーデン国王を戴く同君連合の形をとることになり、完全な独立を達成したのは20世紀初頭の1905年であった。
問10	答え 3 ジズヤ	ムガル帝国の第3代皇帝アクバルは、ヒンドゥー教徒をはじめとする非ムスリムとの融和を図るため、それまで課されていた人頭税（ジズヤ）を1564年に廃止した。これにより、帝国における諸宗教の融和と統治の安定がもたらされた。なお、この税はのちに第6代皇帝アウラングゼーブによって復活されることとなる。